

渋沢栄一揮毫扇面

一九二四(大正一三)年五月二十五日に挙行された埼玉県立川越中学校創立二十五周年記念祝賀式の来賓に頒布された記念品の扇子の原書。
同窓会で保管されていたものを表装した。

待有余而
 濟人終無
 濟人之口
 待有暇而
 讀書必無
 讀書之時

余り有るを待ちて
 人を濟はば終に
 人を濟ふの口無けん
 暇有るを待ちて
 書を読まば必ずや
 書を読むの時無けん

為川越中学創立
 立二十五年記念
 青淵老人書

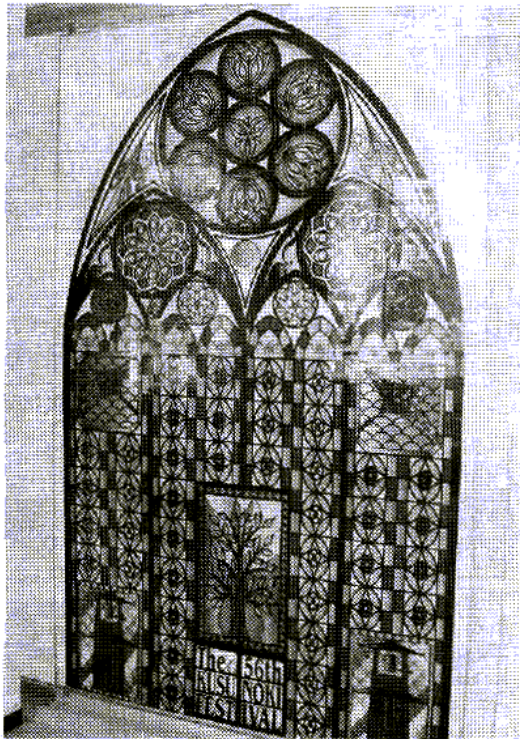
川越中学創立
 二十五年記念の為に
 青淵老人書

余裕ができるのを待つて人を濟い助けようとするならば
 いつになつても人を濟う日はおとずれないであろう
 暇のできるのを待つて書を読もうとするならば
 必ずや書を読む時はやつて来ないであろう

川越中学創立二十五年記念の為に
 青淵老人書

式典の午後は、東京帝国大学伝染病研究所員井上善十郎(免疫の話)ら六人の同窓会員による記念講演会が開催された。
 前日の五月二十四日には二十五周年記念旅行列がおこなわれ、二八日の開校記念日には、記念祝賀陸上大運動会も実施された。

(解説にあたっては、埼玉大学教授山野清二郎氏(高校一二回)にご協力をいただきました。)



2003年度くすのき祭の門班が製作したステンドグラス。
 図書館2階に展示。同窓会よりフレームを寄贈。



清水 鳩山

雪 春

春の朝、目覚めると真っ白な世界陽ざしをあび、きらきりと輝く
 なぜか、うきうきしてくる
 からだがるくなる
 そんな、明るく、楽しいイメージをリズムカルに表現したい

清水 鳩山(繁)

(川越高校【紀要】39集より転載)